

## 次期総合計画の策定に係る各種審議会や委員会でのいただいた御意見の概要

### 1 会の名称

平成 29 年度第 2 回 県央広域振興圏経営懇談会

### 2 県側出席者

盛岡広域振興局長  
政策地域部政策推進室

### 3 開催日時

平成 30 年 1 月 18 日（木） 14：00～16：40

### 4 主な御意見の概要

#### ○「幸福」という言葉の持つイメージについて

・幸福という文字が目に入った時に、宗教的な印象を非常に強く受け、違和感を受けた。

#### ○「幸福」というキーワードと総合計画について

・幸福の感じ方は、個人の主観に基づき様々あり、例えば現状維持でも良いと感じる人もいれば、もっともっと稼ぎたいと感じる人もいると思うが、それを一緒にして議論して良いのかなと気になっている。

幸福を指標にするのであれば、それは一つの形に収まるものではないと思われ、その辺の議論は必要になってくると思うし、また、議論を進めるために、具体的な事例があると話しやすいと感じる。

・幸せということ、従来の縦割りではなく、ボーダーレスで考えていただくことは非常に良いこととだが、年代によって、また、生活レベルによって何を幸せと考えるかには差があると思う。

そうした差をどのように調整するかが課題となってくると感じている。

行政が幸福を考えるためには、具体的な現実の具現性が可能なことを議論していくべきであるが、その辺りが県民の皆様の年代も住んでいる場所も考え方も主義主張もバラバラな人達に伝えるときに、理念を伝えることも大事ですが、具体的なミニマムスタンダードの可視化がないと論点がずれてしまうと思う。

また、ソーシャルキャピタルは非常に重要で、それこそが本県で伝えるべき大切なものだと感じる。

・幸福という言葉に宗教的な印象を受けるという懸念があること、また、他力本願的な受け止めをされないかという懸念があること、県の計画に幸福をテーマ設定することについて、その理由と幸福という言葉のイメージについて、誰でも分かりやすい形で説明する必要があるのではないかと、特に経済指標だけを活用することの限界について、もう少し丁寧に触れても良いのではないかと感じている。

・幸福について多種多様な捉え方があるが、大きな概念に真正面から向き合う基本姿勢については、素晴らしく思う。

ただ、施策に落としとしていく段階で、個々の多様性にあわせるのが難しくなっていくと感じていることから、全県民にとって良いものではなくとも、県民の最大公約数のようなものになるように計画策定段階はもちろん、取組みがスタートしてからも出来るだけ、多くの県民からフィードバックを受け続けることが重要であり、どんどん深化していく幸福指標が望まれる。

・幸福ということを数値化するという事は、みんなが納得する 100 点満点の回答はなかなか出づらと思う。

そういう側面があるというのは理解しているが、何の指標もないと人間は努力しづらことから、まずはこうしたスキームのものを作り、トライ&エラーで進めていくことが全体としては望ましいのではないのでしょうか。

・幸福について、私自身はすごく幸せを感じていますが、非常にとらえどころのない難しいものと感じている。

比較論的なところもあり、地域別、特に戦争が起きているような地域と比べると私達は幸せだなと感じる。いろいろな立ち位置によって感じ方が違うと思う。

それを指標にすることは非常に難しいのではないかと感じる

・幸福という考え方について、宗教的な面や主観的な面もあると思うが、客観的な指標が大事になってくると思う。

事実を幸福という概念でくくってみた時に、量的な評価だけではなく、質的にしっかりと評価して、いろいろな岩手としての指標が質的に十分に高まっているかということを見せていくことが大事なことであると思う。

客観的な指標の中で、質的な充実を図っていくということ計画の中で議論して欲しいと思う。

#### ○領域・指標の設定について

・幸福の 12 の領域の中に、食に関する項目があっても良かったのではないかと感じる。

・森林に関する指標として森林面積割合が出てきているが、林業に携わる人間としては、10 年以上前から、岩手県は森林面積が広く、たくさんの森林があるが、森林は手入れ不足で放置されているのが問題と言われている。

それに対する取組を行っていますが、森林面積だけが指標化されると、森林のクオリティが忘れ去られてしまうのではないのでしょうか。若干のミスリーディングを感じる。

・自然エネルギーの自給率が指標の中にありますが、逆に食料の自給率がありませんが、農・水産業に携わられる皆様はどのように感じられているのか気になる。

#### ○アンケート調査について

・アンケート結果が岩手県民の考えとして数値を捉えがちですが、概して、アンケートについて年配者は丁寧に回答しますが、若い世代は比較的回答していないといったことが多いのではないかと。

アンケート結果が全てだ、県民の意識だという流れで計画を作っていないか疑問を感じる。

・アンケート結果の全体、性別毎の結果を見ると女性の回答が大きく反映されているように見受けられ、同等ではないなと感じている。